
筋肉王te zi ma

ピラメバスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

筋肉王 t e z i m a

【Nコード】

N7054L

【作者名】

ピラメバスター

【あらすじ】

そう遠くない未来。人々は争い、太陽系の惑星は滅びの一途を辿っていた・・・そんな絶望の時代を救う為、後に筋肉王と呼ばれることになる一人のマツチヨが立ち上がった！

さすらいの筋肉現る(前書き)

本格的に始めました筋肉王。

A「ああ？」

B「何モンだ！」

謎の男「名乗るほどのモンじゃないさ・・・」

謎の男は少し笑みを浮かべながら言う。

謎「こんなひよろい奴らに殴りかかるなよ。死んじまつぜ？」

A「うるせえ！」

バキッ！

Aの拳が謎の男の顔に当たる。

A「へっ、かつこつけやがって」

謎「だれがだ？」

A「何！？」

謎の男は笑っていた。

さすらいの筋肉現る（後書き）

謎の男は一体誰なのか！？多分次でわかるとおもいます。

プロローグ

えー、皆さんはじめまして。こんにちは？こんばんは？それともおはよう？まあそんなのはいいとして・・・

この小説は僕の初投稿です。まだまだ未熟な部分がありますが是非読んでください。m (_ _) m

20XX年地球人は太陽系の惑星全てを手中に収めていた。それぞれの星で様々な研究が行われ、それぞれの星は繁栄していた。だが、研究をし過ぎるあまり、星の環境は崩壊していった・・・人々がそのことに気づいたときには、すでに遅かった。

やがて、人々は生きるために争うようになった・・・この戦いを人々は8惑星大戦争と呼んだ。

永遠に続くと思われるこの戦いは、ある一人のマッスルにより一時終わることになる・・・

名も分からぬそのマッスルを、人は筋肉王と呼んだ。

争いは終わったかに見えたがあるひとりの悪しき人間により争いはまた引き起こされることになる・・・

はい、というわけで今回はプロローグを紹介しました。

これから読んでくれる方はあまり期待しないで次の話を待っていてください！

さすらいの筋肉の名（前書き）

小説書くのはすごい大変だ。

さすらいの筋肉の名

とあるスラム街で襲われた骨とゴボウ。そんな彼らのピンチに現れたのは謎の男だった！

~~~~~骨・ゴボウside~~~~~

男Aに殴られそうになった二人は目をつぶった。バシツという音がして二人は目を開けた。二人の目の前にいたのは、ムキムキのマツチヨだった。

骨・ゴボウ（え？だ、誰だこの人？筋肉ムキムキだ）

謎の男「こんなヒョロヒョロの奴らを殴るなよ 死んじまうぜ？」

男Aは謎の男の顔面にパンチを加えた。だが、謎の男は笑っていた。驚いている男二人をさしおいて男は言った。

謎「だいじょうぶか？」

骨・ゴボウ「はい」

謎「さがってな」

二人は困惑した表情で何歩か後退した。

A「テメエ！一体何モンなんだ！」

謎「さつきも言っただろっ？名乗るほどのモンじゃないとな」

謎「それにお前らに教えたところで俺には何の得にもなんないからな」

A「へっ！じゃあとととくたばっちまえ！今度は本気で行くぜ！」

バシッ！・・・バタッ・・・

A「はっはっは！俺様に逆らうとこっつなるのさ！」

B「さすが兄貴！」

A「じゃあ次はお前らの番だぜ」

骨・ゴボウ「ヒッ」

ゴボウ「なんだよー！あの人何しに来たんだ！」

B「アニキイ、最初は俺にやらせちゃくれませんかねえ」

A「はっ！俺の分も残しておけよ」

B「へっへっへっ。ありがとうっ・・・」

バタッ

A「おい、どうした」

謎の男「なまくらパンチだな。100分の3点だ。」

A「なっ！？お前・・・そこで伸びてたんじゃなかったのか!？」

謎「100分の3点のパンチで俺がのびるわけないだろ」

A「んだとおっ！」

男はまた殴りかかった。

謎「遅い」

謎の男はいとも簡単によけた。

A「ざけんなあっ！」

男Aはさっきよりも速い速度で百〇拳みたいなことをやってきた。

謎「うるさいなお前」

ドガッ!

その音とともに男Aは地べたに倒れた。だが、男のパンチが少し当たったみたいで、謎の男の服が少し破れてしまった。破れた瞬間男Aは驚いた顔で言った。

A「な、お・・・お前は」

そっぴいかけたとき男は気絶した。

骨・ゴボウ(すごいやこの人・・・あんな男を一発でのすなんて・・・

・ それにこの人)

謎「怪我は・・・ってないか じゃあな」

骨・ゴボウ「あ、あの！」

謎「何だ」

骨・ゴボウ「あなた旅の人ですよね！僕たちも連れて行ってください！」

謎の男「はあ？」

男は何だこいつらと思った顔だった。

## さすらいの筋肉の名(後書き)

謎の男の正体分かりませんでしたね。なので次回には分かるようにします。

## 第四戦 さすらいの筋肉の旅

謎の男「はあ？」

謎の男は骨とごぼうに仲間になってくださいと言われ、困惑した表情で言った。

謎「何でお前らと一緒に行かなきゃならないんだ。」

骨・ゴボウ「お願いします！マジでお願いします！僕たちあなたのように強くなりたいんです！」

謎「強く・・・になりたい？・・・プツ・・・クククク・・・アツハハハハハハ！ギハハハハハ！！！」

謎「お前らがどんなに努力したって俺のように強くなれるわけないだろ！（笑）」

骨・ゴボウ「お願いします！あなたの言うことなら何でも聞きます！」

謎「え？・・・お前ら今何だった・・・？」

骨・ゴボウ「得・・・あなたの言うことなら何でも聞きます。だからなかまにしてくださいと・・・」

謎の男は驚いていた。何故なら自分がこんなこと言われたのは初めてだからだ。

この男の過去についてはまた語るかもだが謎の男は驚いていた。

謎「俺の言うことなら何でも聞くだど……!?!」

謎「面白い」

骨「え?」

謎「いいだろう!仲間にしてやるぜ!」

ゴボウ「ホントですか!?!」

謎「男に二言は無い!」

骨「ありがとうございます!」

謎「あ、そうだ 仲間になるんだから俺の名前を教えてやるう。俺の名は!tezimaだぁー!」

ゴボウ「よろしくお願いしますtezimaさん!」

こうして三人の旅は始まるのであった

**第四戦 さすらいの筋肉の旅（後書き）**

名前を明かすことが出来ました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7054/>

---

筋肉王te zi ma

2010年10月11日01時36分発行